

令和6年
9月

北文化小劇場 催し物ご案内

開催日	催事名	開演	終演	問い合わせ先	入場料
10日 (火)	寿演奏会	10:00	16:00	大重普竹 090-8679-2672	無料
14日 (土)	あいち平和映画祭2024 映画 「戦争と人間 第三部・完結編」 上映会 チケット 取扱い	12:00	15:30	あいち平和映画祭 2024実行委員会 052-751-1521 (FAX 751-1521)	全自由席 一般 1,200円(当日1,500円) 学生 1,000円(当日1,200円) 障がい者 1,000円(当日1,200円)
15日 (日)	明峰岳風会 第15回 親睦一吟会	11:00	15:00	明峰岳風会(今枝) 090-7435-3892	無料
21日 (土)	ふれあい文化事業 3 ガガヘッズLive Show チケット 取扱い	10:30	12:00	北文化小劇場 052-910-3366	全自由席 一般 1,500円 友の会(前売のみ) 1,300円 障がい者等 1,300円

チケット
取扱い …北文化小劇場にてチケット取扱い

* 非公開の催し物や練習でのご利用等のため掲載のない催し物もございます。予めご了承ください。
* 催し物の時間、内容等が変更になる場合がございます。

北文化小劇場 施設利用のご案内

演奏会や舞踊会など幅広い公演にご利用いただけますので、お気軽にお問合せください。



ホール



練習室

- ホール見学&各種相談承ります！
- ◆客席数 297席(椅子席237・柵席60)
 - ◆舞 台 間口14.5m 高さ6.0m 奥行8.2m
 - ◆楽 屋 2室
 - ◆練習室 1室(45㎡)
 - ◆駐車場 37台(図書館共用)



名古屋市北文化小劇場情報紙
北文化小劇場だより 2024 9月

北文化小劇場って
どんなところ？

- Topics
- 劇場紹介
 - 伝統文化アドバイザーエッセイ

北文小の魅力をまるっとご紹介！ 北文化小劇場ってどんなところ？

施設概要

開 館：平成12年7月17日
客席数：297席（椅子席237席、棧敷席60席）
所在地：名古屋市北区志賀町4-60-31
（地下鉄黒川駅から徒歩12分、市バス「北図書館」より徒歩3分）



ほんはなみち

本花道

舞台と同じ高さで客席の間に設けられた舞台機構のことで、歌舞伎や日本舞踊で使用されます。北文化小劇場は本花道が常設されている珍しい劇場です。

演劇やダンスの延長舞台として、または発表会の入退場通路としての利用など、幅広い用途で利用することが可能です。



さじきせき

棧敷席

靴を脱いで座布団に座って鑑賞する席で、花道に沿って設置されています。椅子に座ることができない小さなお子様にもおすすめです。
※公演によっては使用しない場合もあります。



とや

鳥屋

花道の突き当りに位置し、花道に出入りする際の控え部屋として使用されます。花道とは揚幕（あげまく）と呼ばれる幕で仕切られており、「北」のマークが描かれています。勢いよく開け閉めすることで「チャリン」と独特の音が鳴ります。



客席

ホールの壁面は草色の壁紙と木目の美しい木枠で囲まれており、和の落ち着いた雰囲気が感じられる劇場です。



詳しい様子ははこちらから



施設内360°ビュー



施設紹介動画

伝統文化アドバイザー 連載エッセイ

第18回

端唄って何？其の四

今回ご紹介する端唄は、初秋ということで「秋」をテーマとする端唄を取り上げます。端唄は、花鳥風月、四季、秋を題材とする楽曲も数多くあります。代表的な「秋の夜」、「萩桔梗」など曲名からも秋の美しさ、儚さ、哀しみなどが感じられます。

今回は私が実際、演奏旅行で大分県で出逢った座敷唄、民謡も合わせご紹介します。「秋の野に出て」という江戸端唄なのですが、寛永年間に歌われ、のちに天領であり材木の産地で栄えた、現在の県日田市に持ち込まれ、安政年間に「コツコツ節」という曲に変化してゆきました。日田では座敷唄、民謡として伝承されています。「秋の野に出て」も「コツコツ節」もとても風流で風情が感じられる曲となっています。

江戸時代、風流人は初秋の夜に虫聞きや秋の七草見物の風情を楽しむ為に郊外に出かけました。「秋の野に出て」の歌詞にはその秋の趣きが現れており、秋の野遊びに出た人々の棲先まで、夜露が濡れかかるのはとても風情があることだと詠み込まれておりますが、歌詞の終わりは江戸っ子好み「よしてもくんな鬼あざみ」とアッサリバッサリ、がらりと変わります。コツコツ節は、元唄「秋の野に出て」の替唄がたくさんあります。ハアーコツコツという囃子言葉が付きますが、これは鮎が舟に口をコツコツあてる音や、鵜舟に棹がコツコツあたる音とも言われています。

私が10年以上前に日田市のご高齢の芸者さんに偶然、実演とこのお話をお聞きする機会がありましたが、端唄の一曲が流行し、変化し、土地の唄となり伝承されていることにとても感動しました。江戸から日田へと一曲が伝承された長い旅路が、またロマンを掻き立てられます。端唄は、やはり江戸時代の流行歌なのだと実感した一曲となりました。

「秋の野に出て」
秋の野に出て七草見れば
ああさんやれ、露で小棲に濡れかかる。さあよしてもくんな鬼あざみ。

「正調コツコツ節」
春の野に出て七草摘めばサンヤリ
ハアーコツコツ
露は小棲に濡れかかる。よしておくれよ鬼あざみ。ハアーコツコツ

伝統文化アドバイザー相談窓口

- ・興味はあるけど、どうやって始めたらいいの？
- ・伝統文化についてもっと詳しく知りたい

そんな相談にアドバイザーがお答えします！

お問合せはこちらから→



【伝統文化アドバイザー】
石田巳賀氏（華道）、加藤条山氏（尺八）
國分入道光雲氏（和太鼓）、華房小真氏（端唄）

快適以上を、世の中へ。

TOENEC

広告募集中！

1枠50,000円／年（HPバナー掲載有）
ご希望の方は北文化小劇場まで
TEL 052-910-3366